

新書紹介

都市行政の新しい設計

吉田 民雄 著

中央経済社 三百六十六頁 四千五百円

近年、いわゆる核家族に加え、単親家庭、高齢者夫婦、あるいは高齢者や若者の独り居まいなど、家族形態の多様化、少人数化が顕著になってきている。また、宅内個室や二世帯住宅など、家族それぞれのプライバシーや生活スタイルを尊重する暮らし方が重視されている。こうした状況は、従来は人々の生活の基礎単位であった家庭（家族）の機能が変化し、家庭から個人へと生活の重点が移ってきていることを物語っているものといえよう。

このように、都市に暮らす人々は、個人の自由な時間を大切に、自分なりの「もの」やサービズにこだわり、暮らしに自分らしさを追求する個人主体のライフスタイルを志向している。こうした中で、生活の豊かさを実感する指標も従来の量的、物質的な充足から「生活の質」の向上へと移り、ハードよりもソ

フト、ミニマムよりも個性、多様性、選択性などがより重視されてきている。今や、都市は、このような個性的な生き方を追

い求める多様な市民の多様な生活を支えるステージとなっているのである。こうした多様性こそが都市の魅力のひとつであり、また活力の源となっているといえるが、逆に、都市行政にとっては、その真の実力が問われる新しい局面に立たされているといえよう。

本書では、こうした都市環境の変化を分析し、「都市の個性的な魅力度の高さが都市発展の駆動力となる『ポスト・モダン都市社会』」を迎え、まちづくりの内容を市民や自治体の創意と責任で決定、実行することとが不可欠な「分権化時代」にあるとしている。そして、住みよい都市の形成は、都市行政の「創造性に富んだ都市政策の形成とその実現能力に」かかって

いるわけだが、このパワーの源は市民や職員の「知力」から生みだされる「△知識・情報▽」という知的経営資源にあるとして、都市自治体は「自己革新」（知的革新）を迫られていると指摘している。

そして、今後の都市政策のあり方については、都市における「生活の質」、「環境の質」の向上が基本課題となるが、このための「ストラテジー（戦略）」として、「個性化」→都市のアイデンティティの確立、「デザイン化」→生活美、都市美、経営美（行政文化）の創造、「感性化」→都市イメージの演出、「多様化」→自由で選択の幅の広い都市の形成、「ネットワーク化」→多様な資源、機能のネットワークと融合、「適正技術化」→分権化と新しいまちづくり技術（手法）の開発の六つが求められるとしている。

さらに、このような都市社会と都市政策の変化に対応する新たな都市行政の姿を指し示して、△効率性▽、△創造性▽、△自律性▽を行動原理とし、「政策主導型」「知的生産型」を基調とした「新世代の都市行政」を提案している。そして、より具体的に地方自治システムの革新

方向、新たな公共サービスのあり方、そして「住民の・住民による・住民のための行政」、「柔構造のネットワーク型の行政」、「アウトプット志向型の行政」、「能動的責任型の行政」の四つの行政スタイルを柱とした新しい都市行政の具体像を提示している。

最後に、新しい都市行政の姿を具現して、「インテリジェンス（知力）」、「ダイナミックス（動態力）」、「マインド（志）」の三つのキーワードへの挑戦という視点から、企画、財政等トップマネジメント機能のあり方、市民ニーズの政策化の手法、行政組織やその運営システムのあり方、職員の個性を尊重する△個活▽主義や能力主義の人事戦略、「生活者の発想と知性豊かな組織文化」の創造などを、具体的にデザインしている。

このように、本書は、単なる「あるべき論」に終始することなく、われわれの実務に直結する有効な提言を数多く含んでおり、家族形態と機能の変化にみられるような都市社会の変容に都市行政がどのように対応していったらよいか、という悩みに一つの答えを示唆してくれるものといえよう。

今、都市は、その個性や魅力が問われる「ポスト・ミニマム」の時代を迎え、都市行政にも新たな展開が求められている。われわれの知恵と創意が問われているのである。

△総務局東京事務所

齋田裕史▽